

# お札と切手の 博物館 ニュース

Banknote and Postage Stamp  
Museum News

## Contents

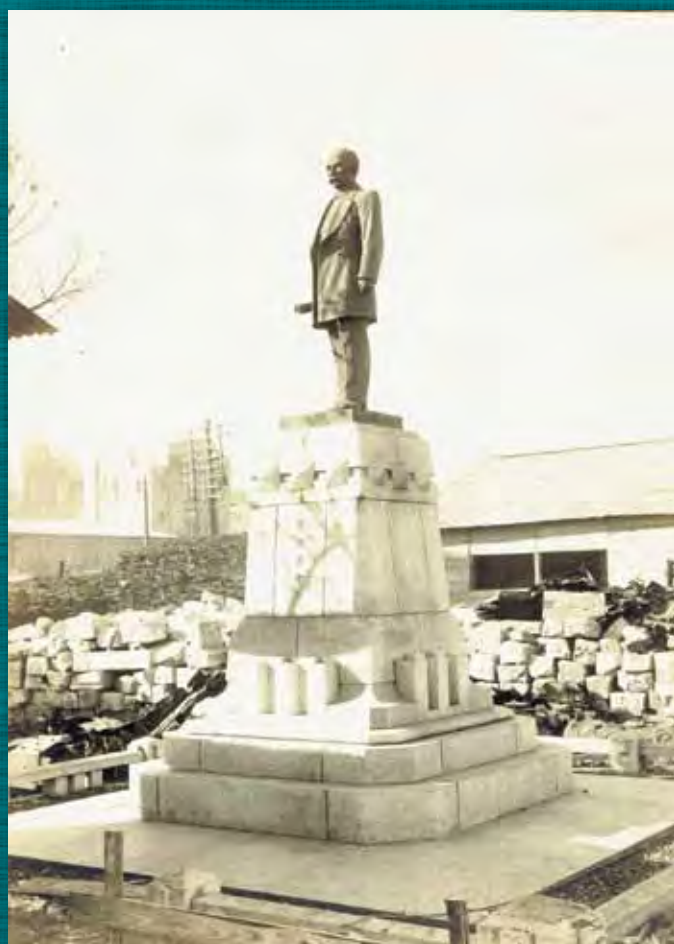
展覧会追録

特別展「お札の色 切手の色～偽造を防ぐ技と美～」より  
「印刷局創立50年記念式典と銅像」

特 集

日本と世界のお札に見るさまざまな肖像とその変遷

2019/7/1  
Vol. 44



## 展覧会 追録



# 平成30年度第2回特別展「お札の色 切手の色～偽造を防ぐ技と美～」より 印刷局創立50年記念式典と銅像

平成30年12月18日(火) から平成31年3月3日(日) まで、特別展「お札の色 切手の色～偽造を防ぐ技と美～」を開催しました。

国立印刷局(以下、「印刷局」)は、明治5(1872)年に日本で初めて洋式インキを製造した「インキのパイオニア」です。140年前の当初から、偽造防止、堅牢不減、最良の彩色を究めることを使命とし、現在まで一貫して証券用インキの開発・製造を続けています。一方、明治・大正期には、副業として一般向けインキや朱肉なども製造し、国内外の博覧会に出品、販売を行って高評価を得ました。展示では、こうした明治・大正期の印刷局のインキ事業を取り上げました。

ここでは、展示内容に関連し、大正10(1921)年に開催された印刷局創立50年記念式典について、当日の様子とエピソードをご紹介します。



特別展会場風景

## 式典の内容



図1 式典が行われた印刷局の大手町工場



図2 壇上で祝辞を述べる原首相

印刷局は、大正10年10月27日、明治4年から創立50年を記念し、大手町の工場構内(図1)で盛大な式典を開催しました。内閣総理大臣 はらたかし 原敬、大蔵大臣 たかはしこれきよ 高橋是清のほか、逓信大臣 ていしん、日本銀行副総裁など、来賓600人を迎え、職員1500人が参列するという大規模なものでした。

式典の正式名称は、「印刷局創立五十年記念式附故印刷局長大 とくのうりよすけ 蔵技監得能良介君銅像除幕式」で、その内容は、①功労者の表彰、②印刷局の礎を築いた局長得能良介の銅像除幕式、③来賓の祝辞が大きな柱でした。

功労者として表彰されたのは、印刷局の初代トップを務めた しぶさわ えい 渋沢栄一や、得能良介のほか、明治初期のお札の原版彫刻を一手に担ったお雇い外国人キヨッソーネなどを含む総勢533名でした。表彰者は、金色、銀色、緑色、紫色、茶色、青色、つやくり 嬌栗色、黄緑色に区分され、銀杯が授与されました。一般職員の中からは、退職者や死亡者も含む勤続25年以上の者、各部門から特に推薦された者が選出されました。

式の終盤には、来賓からの祝辞が述べられ、印刷局の技術が日本の経済、工業、文化に貢献したことが称えられましたが、式典後には、衝撃的な事件が起こります。来賓として臨席した原首相が、式典から1週間後の11月4日、東京駅で暗殺されたのです。壇上で祝辞を述べる原首相の様子(図2)は、図らずも事件直前の姿となってしまいました。

## 会場と演出

会場では、紅白幕や緑門(アーチ)、仮設トイレ20か所といった準備のほか、式典を華々しく盛り上げるための催しも企画されました。花火(10発)、海軍軍楽隊による演奏、「印刷局歌」の公募・選定、「参考品陳列」、余興などです。

「局歌」は、官報や新聞で募集し、式典当日の官報で当選曲を発表したもので、正式には翌年1月に制定されました。

一方、「参考品陳列」は、構内に印刷局の事業に関する品々の展示場を設けたもので(図3-①)、一部ですが写真も残っています(図4)。写り込んだ文字から、3種の書状が展示されていることが分かります。まずは、明治10年に天皇が工場に行幸した際を下賜された「聖勅」です。そして、明治9年の工場完成時に局長得能良介と各部門の長が一大決意表明として血判した「血盟書」があります。さらに、明治13年、得能が病床で記した印刷局の工場経営方針に、幹部が誓いとして捺印した「工場告諭書」があります。これらは、いずれも草創期から技術とともに受け継いできた印刷局の伝統、心得であり、所蔵先から借り受けたものも含め、式典で特別に展示されたと考えられます。

一方、特に職員を楽しませようと余興場も設けられ(図3-②)、だいかぐら太神楽(獅子舞、曲芸など)、手品が催されました。大正時代の印刷局では、職員に対する福利厚生事業として慰安会を開催しており、その様子を収めた写真から、当日の様子を類推することができます(図5)。

## 印刷局長得能良介の銅像と数奇な運命

式典は、創立50年の祝典の意はもちろん、草創期に印刷局の礎を築いた局長、得能良介の顕彰も兼ねていました。

得能は、明治7年から同16年まで局長を務め、当初は行政官庁であった印刷局を現業官庁に転換させ、近代的なお札の国産化を実現しました。欧米から最新技術を取り入れ、日本の伝統技術も活用しながら、印刷、紙、インキなどすべてを独自に開発することで偽造を防ぎ、かつ特殊技術の先駆として日本の技術産業の向上・輸出振興も目指した人物です。

式典当日までに、得能の銅像(図6)が建設されたほか、得能の伝記『得能良介君傳』も編集・発行(配布)されました。ちなみに、銅像の作者は、後に長崎市の「平和祈念像」(図7)を手掛けたこと<sup>きたむらせいぼう</sup>で知られる北村西望です。式典では、除幕式の記念として、銅像をモチーフとした絵はがきが製作・配布されました。



図3 「式場案内図(式場付近拡大図)」(部分)



図4 「参考品陳列」の様子



図5 大正4年の慰安会の様子



図6 得能良介銅像



図7 切手に描かれた「平和祈念像」  
20世紀デザイン切手シリーズ  
第9集 平成12(2000)年

この銅像については、「式場案内図」(図3-③、図8)、「式場略図」(図9) から、式典ときに設置された場所を特定することができます。また、前述の原首相祝辞の写真(図10)や、式典当日に配布された記念絵葉書(図11)をよく見ると、銅像とその特徴的な台座が写り込み、描き込まれていることも分かりました。



図8 式場案内図(部分拡大)

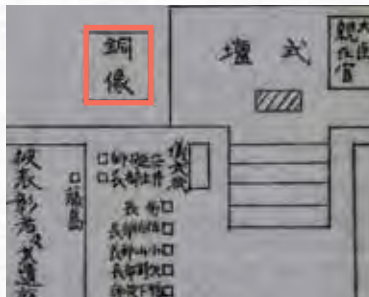


図9 式場略図(部分拡大)



図10 原首相のいる壇上横に写る銅像(部分拡大)



図11 「印刷局創立五十年記念絵葉書・印刷局全景」(部分拡大)



大々的にお披露目された銅像でしたが、その後<sup>うよきよせつ など</sup>紆余曲折を辿ります。

式典から2年後の大正12(1923)年、関東大震災が起き、工場の建物は崩壊してしまいました(図12)。しかし、銅像だけは奇跡的に崩れることなく立ち続けたのです(図13)。とはいえ、安全上から、銅像は一時的に解体されることとなりました。



図13 関東大震災直後の銅像



図12 がれきの山となった工場

その後、昭和5(1930)年には、震災で崩れた大手町工場に代わって、新たに滝野川工場(東京都北区)が建設され、その2年後、得能の銅像は構内に設置されることが決まり、落成式が開かれました(図14)。



図14 滝野川工場(現在の東京工場)に移転した銅像と落成式(昭和7年)の様子

喜びもつかの間、再び悲劇が銅像を襲います。戦争の最中の昭和18年、金属類回収令によって銅像も供出の対象となったため、立像を胸像に縮めることとなったのです。

当初の姿ではなくなったものの、得能の銅像は震災も戦争も乗り越え、今なお東京工場(「滝野川工場」から改称)の敷地に設置されています(図15)。創立50年以来、印刷局の事業、歴史を体現する遺物として、その伝統を伝え続けているのです。  
(学芸員 土井 侑理子)



図15 現在の得能良介銅像

# 日本と世界のお札に見る さまざまな肖像とその変遷

世界のお札の多くには肖像があり、その国を代表する人物が「お札の顔」として描かれています。

お札の肖像は、ごくわずかな変化でも気づきやすいという人間の特性を活かし、容易に複製できないよう緻密な点と線によって構成されているため、偽造を防止する効果が高く、多くの国で採用されています。

長い歴史において、お札の肖像は多様な変遷を遂げてきました。お札に描かれる人物像を見てゆくと、時代的な背景、政治、社会情勢などを反映しながら姿を変えていることがわかります。

ここでは、これまでどのような人物がお札に採用されてきたのか、日本と世界の主な肖像を対比しながら、その変遷をたどります。

## 日本で初めて肖像が採用されたお札

日本では、江戸時代まで、肖像のないお札が使われていました。江戸幕府が崩壊し、明治新政府が発行した太政官札や、ドイツに製造を依頼した新紙幣(通称「ゲルマン紙幣」)には、天皇位の象徴として、龍、鳳凰、菊や桐の紋章が描かれています。明治初期のお札には、これらの図柄が多く使われていましたが、明治14(1881)年に発行された改造紙幣(図1)において、初めて人物の肖像が登場しました。当時の諸外国では、アメリカの大統領(図2)やロシアの皇帝を肖像に用いた例があり、偽造防止効果が高いことから、日本もこれらの国々に倣ったと考えられます。

改造紙幣のように特定の女性像を用いたお札は他国にはまだなく、世界でも先駆的な事例といえます。18~19世紀頃の欧米諸国では、自由や平等を伝え、国家をアピールするために、神話の女神や国を擬人化した女性の肖像が多く描かれていました。ドイツでは、小国に分かれていた国々が統一されてドイツ帝国が1871年に誕生すると、国家を表す女性「ゲルマニア」の肖像をお札に描き(図4)、国民の団結心を図りました。このように国を擬人化した女性像は、アメリカの「コロンビア」(図3)、イギリスの「ブリタニア」、フランスの「マリヤヌ」など他国にも見られますが、欧米諸国は、これらの女性像をお札に描くことで国民の心を一つにまとめ、近代国家を築き上げていったのです。



図1 改造紙幣 1円 明治14(1881)年

肖像となった神功皇后は、古事記や日本書紀に記述のある伝承上の人物。摂政の時、後に1円札の肖像となる大臣の武内宿禰(図6)とともに三韓征伐を行い、金銀を貢納されたと伝えられており、貨幣に縁の深い人物として肖像に選ばれている。



図2 アメリカ 10セント 1863年



図3 アメリカ 15セント 1863年

南北戦争下に発行された緊急紙幣には、初代大統領ワシントンと、国家を表す女神コロンビアの肖像が描かれている。



図4 ドイツ 5マルク 1904年

## 繰り返し描かれた肖像

一方、明治15(1882)年、「日本銀行条例」が制定され日本の中央銀行として日本銀行が設立されると、「大黒札」と呼ばれる最初の日本銀行券が明治18年に発行されますが、用紙の不具合や偽造が発生したため、新たなお札の発行が検討されることとなり、その肖像は国民から敬愛される人物としました。天皇親政を掲げる明治国家にふさわしく、天皇家を支えたと伝えられる歴史上の人物が選ばれ、明治20年の閣議において決定されました。当初は7券種を発行する予定だったため、7名の人物が選定されましたが、当面は4券種だけ発行することとなり、菅原道真(図5)、武内宿禰(図6)、和気清麻呂(図7)、藤原鎌足(図8)が肖像として採用された後、昭和2(1927)年、兌換銀行券整理法の成立により、聖徳太子(図9)の肖像が新たに採用され、これらの人物は終戦直後まで繰り返しお札に描かれました。聖徳太子の肖像は戦後も登場し、昭和のお札の代名詞としても親しまれました。残る2名の人物ですが、坂上田村麻呂だけは肖像に採用されず、日本武尊(図10)は戦時中に非常用の高額券として一度だけ採用されています。このように、戦前の日本では、あらかじめ決められた7名の中から人物を選択し、繰り返し肖像に採用するというユニークな方式がとられていました。



図5 日本銀行兌換銀券 改造5円  
明治21(1888)年



図6 日本銀行兌換銀券 改造1円  
明治22年(1889)年



図7 日本銀行兌換銀券 改造10円  
明治23(1890)年



図8(参考)日本銀行兌換券 甲100円  
明治33(1900)年



図9 日本銀行兌換券 乙100円  
昭和5(1930)年



図10 日本銀行兌換券 甲1000円  
昭和20(1945)年

## 国王や政治家の肖像

19世紀後半の欧米諸国は、産業革命の進展とともに資本主義が発達し、海外領土の獲得のため世界へ進出した帝国主義の時代にありました。国王や大統領などをお札の肖像に用いることで国民の忠誠心や愛国心を喚起させるという傾向は、戦争や経済混乱の続く20世紀中頃まで見られます。(図11)

また、アメリカでは、早くから政治家の肖像が採用されていました。初代大統領ワシントンの肖像は、南北戦争(1861~1865年)下に発行された緊急紙幣(図2)に描かれています。1869年からは1ドル札に登場しました。そして、1920年代以降、リンカーン(図12)、ジャクソン、フランクリンといった歴代の大統領や政治家とともに、今もアメリカの顔を務め続けています。

このように、アメリカでは、西欧諸国よりも早く政治家の肖像を採用し、長い期間、デザインを大きく変えずに各券種で同じ肖像を使い続けており、それが国の伝統となっています。同国だけでなく、世界中の多くの人々に使われるドル札は、混乱を防ぐためにイメージを大きく変えないということも考えられます。



図11 スペイン 100ペセタ 1925年  
16世紀後半、全盛期のスペインを  
統治した国王フェリペⅡ世の肖像



図12 アメリカ 5ドル 1928年  
第16代大統領エイブラハム・  
リンカーンの肖像

# 明治の政治家たちの登場

日本では、第二次世界大戦後、GHQ(連合軍最高司令官総司令部)の指導により、戦前のお札に繰り返し用いた人物は、<sup>しやうとくだいし</sup>聖徳太子を除いてすべて使用できなくなりました。サンフランシスコ平和条約の締結によりGHQの許可が不要になると、近代国家を築いた明治期の政治家たちが肖像に採用されることとなります。

自由民権運動で知られる<sup>いたがきたいすけ</sup>板垣退助は、民主主義を象徴する人物としてすでに小額紙幣(50銭)に採用されていましたが、二度目の登場となり(図13)、新たに、<sup>いわくらともみ</sup>岩倉具視、<sup>たかはしこれきよ</sup>高橋是清、<sup>いとうひろぶみ</sup>伊藤博文の肖像が加わり、日本のお札の顔ぶれは大きく変わってゆきます。



図13 日本銀行券 B100円  
昭和28(1953)年

# 政治家から文化人の肖像へ

戦後は西欧諸国を中心に、芸術家や作家、科学者など、文化や科学に貢献した人物が採用されるようになり、女性の肖像(図14)も多く登場し、それが世界的な傾向となります。

高度経済成長期を迎えた日本では、芸術や文化への志向の高まりとともに、<sup>ふくざわゆきち</sup>福沢諭吉、<sup>にとべいなぞう</sup>新渡戸稲造、<sup>なつめ そうせき</sup>夏目漱石の肖像(図15)が登場しました。

現在使われているお札には、日本銀行券で初めての女性肖像として、<sup>ひぐちいちよう</sup>樋口一葉(図16)が採用されました。政府の発行した改造紙幣の<sup>じんこうこうごう</sup>神功皇后(図1)を入れると、日本のお札では二人目の女性肖像となります。

そして、令和6(2024)年度に発行予定のお札には、<sup>しぶさわえいいち</sup>渋沢栄一、<sup>つだうめこ</sup>津田梅子、<sup>きたさと</sup>北里柴三郎が採用されることが発表され、日本のお札の肖像の歴史に、文化人としてまた新たな人物が加わることとなりました。



図14 ドイツ 100マルク 1989年  
音楽家クララ・シューマンの肖像



図15 日本銀行券 D1000円  
昭和59(1984)年



図16 日本銀行券 E5000円  
平成16(2004)年

# 肖像の多様化

一方、アジアやアフリカ諸国、太平洋諸島の国々では、国家の事情などを反映し、労働者や子ども、一般の男女がお札の主役として描かれ(図17)、昨今のスウェーデンでは映画女優の肖像が採用されるなど(図18)、世界の肖像は多様化しています。

このように、お札の肖像は、国家の方針や政策、時代背景などを反映しながら、さまざまな変遷を遂げてきました。戦前の日本では、天皇家を支えた古代の人物を繰り返し肖像に採用していましたが、戦後は海外の影響も受けながら、政治家から文化人の肖像へと変遷しました。一方、欧米諸国では、近代国家を形成する上で、国民の国家への帰属心を高めるなど、お札の肖像が大きな役割を果たしています。

21世紀には、ユーロに見られるような架空の建築物や抽象的なデザインなど、世界には肖像以外のお札が出現していますが、肖像を用いたお札は、現在も世界の半数以上を占めています。精細な彫刻による人物肖像は容易に複製されることを防ぐだけでなく、その人物像を通して国家を語り、時には券種の代名詞となり国民の認知度や愛国心を深め、国内外へその存在をアピールするなど、絶大な効果を持ち、国家を代表する顔として、今もなお重要な役割を担っているのです。(学芸員 佐藤 さおり)



図17 中部アフリカ経済通貨共同体  
2000フラン 1993年



図18 スウェーデン 100クローナ 2016年  
\*現代の肖像の一例。  
映画女優のグレッタ・ガルボが描かれている。

## 展示予告

令和元年度第1回特別展



お札はいろいろな人が使います。だからこそ、誰でも使いやすいことが重要です。そのため、お札には、すぐに額面(金額)が分かること、そして本物のお札であると信用して使うことができるように様々な役割の文字が書かれています。

では、文字はどのような形で入れられているのか、どうしてこのような文字がお札に入れられるようになったのか、日本のお札と海外のお札を比べながら、お札の文字のひみつに迫ります。

### 体験コーナー

#### お札の文字クイズ

お札の文字にはひみつがいっぱい！  
展示を見てクイズに答えよう。

#### お札の文字を写しとろう！

お札に書いてある文字を、見本を見ながら写しとってみよう。どんな文字が書いてあるかな？

#### ①お札にはどんな文字がある？

現在発行されているお札で確かめよう

#### ②お札を使いやすくする文字

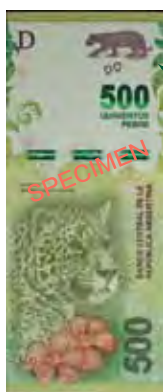
いくらのお札かすぐわかる工夫を見てみよう

#### ③お札を信頼できるものにする文字

「本物のお札だ」と信用してもらえるための工夫を見てみよう

#### ④安心して使うことができるお札を作る

文字がはっきり印刷されていないとせっかくの工夫も台無し！



アルゼンチン 500ペソ 2016年



イエメン 1000リアル 2004年

今年もやります！

## 体験イベント「すかし入りのはがきを作ろう！」

「すきげた」という道具を使って光にかざすと、絵や文字が現れる「すかし」の入ったはがきが作れます。

期 間 7月20日(土)～8月25日(日)

体験時間 10:00～12:00、13:00～16:20

\*体験無料

\*体験所要時間は約10分

\*混雑具合によって、受付を早めに締め切らせていただく場合があります。



## ご利用案内

入館無料

開館時間：9:30～17:00

休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)

年末年始、臨時休館日

※団体見学は、あらかじめ電話でご連絡ください。

交通

JR京浜東北線「王子駅」(中央口)下車 徒歩3分

東京メトロ南北線「王子駅」(1番出口)下車 徒歩3分

都電荒川線(東京さくらトラム)「王子駅前」下車 徒歩3分

\*駐車場はありません。

常設展

偽造防止技術の歴史—印刷技術・製紙技術

偽造防止技術体験コーナー

重要文化財 スタンホープ印刷機

お札の移り変わり/世界のお札/

切手の移り変わり/世界の切手/

国立印刷局の歴史/世界のめずらしいお札/

お札の芸術

\*特別展開催時は一部展示の変更があります。



独立行政法人 国立印刷局

## お札と切手の博物館

〒114-0002 東京都北区王子1-6-1

TEL.03-5390-5194

<http://www.npb.go.jp/ja/museum/>

お札と切手の博物館

検索

発行：お札と切手の博物館(国立印刷局博物館)

発行日：令和元年7月1日 ©2019

本書掲載の内容を許可なく複写、複製、転載することを禁じます。

※この冊子は再生紙を使用しています。